

第5回長浜市「挑戦と創造」の懇話会 議事要点録

I 日時 令和元年9月18日（水曜日）13時30分～15時30分

II 場所 長浜市役所5階 5-A会議室（長浜市八幡東町632番地）

III 出席者 石井良一委員（座長） 松島三兒委員（副座長）
高津融男委員 宮本麻里委員 箕浦淳委員
吉田真理子委員 松井善典委員

【事務局】古田総合政策部長、山内総合政策部次長、横尾総合政策課長、柴田課長代理、茂森主幹、山田主幹、中嶋主査

IV 内容

1 開会

事務局 開会のあいさつ

2 報告事項 関係人口の取り組みが総務省の「『関係人口創出・拡大事業』モデル事業」の採択を受けた旨を報告。

3 議事

(1) 市民満足度調査結果の報告について

事務局 <資料2-1、2にもとづき市民満足度調査の結果報告>

座長 3点が真ん中。一番高いので3.64。それほど高い満足度ではない印象。普段の生活については満足度高い。長浜在住者は割合満足している。仕事、防犯、交通安全については一抹の不安。これは長浜だけではなく全国的な傾向。わかりやすい結果だと思われる。

委員 北部地域や南部地域で違いがあると思われる。それを平準化するのも大事。地域の特徴表すのもよい。

事務局 公表はしていないが、地域ごとで調査しているため、クロス集計はしている。

委員 データに基づいた政策形成のためにも蓄積も重要。成果もわかりやすい。年齢別でもわかるとよい。若年層、特に20代が満足していないため、流出の対策が立てられる。

座長 産業と交流の満足度があまり高くない。雇用に関係あれば若い人が留まらない理由も仮説として立てられる。

事務局 健康・福祉は満足度高い。基本的に回答率が年齢に正比例しているため、関心が健康・福祉に寄る部分はあるかもしれない。

座長 29歳以下の「住み心地」が「悪い」「とても悪い」の合計が23.7%と高い。何か原因があるのでは。現状満足しているようだが30～44歳も大事。小さな子どもを抱えている層だから。よい子育て環境を求めて転出する可能性が高い。ベスト10、ワースト10でどういう評価をしているかというデータを作ると今後の政策形成の大きな参考になる。懇話会や外部向けというより内部資料として。

(2) 長浜市人口ビジョンの速報について

(3) 第2期長浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

- 事務局 <資料3にもとづき長浜市人口ビジョン及び第2期長浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略について説明>
- 座長 平成30年だけ転出が多い。
- 事務局 平成29年以前は件数だが、平成30年は人数。後ほど訂正する。
- 座長 課題として若年層の女性の転出がある。近況は？
- 事務局 子育て世代については転出超過が改善されている。20代については転出超過が増加し続けている。
- 委員 ベトナム人が増えているのは企業実習生の影響か。
- 事務局 それもある。企業のニーズともあっている。
- 座長 中国人も増えている。
- 事務局 アジア系の企業の進出もある。
- 座長 定住には繋がるのか。
- 事務局 そうなと思うが不透明。しばらくは増加すると思われる。これまでは南米の方が多いため、受入れの問題も出てくる。
- 副座長 人件費が安価であることが起因であるなら、日本人も含めて所得の低減化に向かわないとよい。
- 委員 企業からはベトナム人は勤勉な方が多いという意見を聞く。こちらで受け入れて、学んでもらい、母国に進出するという狙いもある。
- 座長 製造業で募集してもあまり集まらない。今後のグローバル化を見据えて企業としても貴重な人材。
- 事務局 将来推計人口はショックを受ける内容。戦後から湖北エリアは12万人のイメージがある。合併以降もキープできるという考えもあったかもしれないが、10万人どころか8万人も切る。これで今の長浜市が存続できるのか。目標となる人口規模にもよると思われるが。
- 座長 厳しいと考えている。特に北部地域については高齢化率が50%を超えている地域も出ている。
- 座長 市の財政規模の縮小し、職員も減る。
- 事務局 2060年前後には職員数も4割減るとの国の予想もある。
- 座長 目標年度や10万人であった人口の長期展望は変更するのか。
- 事務局 目標年度は2060年のままだが、10万人を保つのは非常に厳しい。見直さざるをえない。
- 座長 人口に関する指標は達成が厳しい。他の目標の検証結果は。
- 事務局 観光客数については増加している(H29:709万人)ものの、達成は難しい。少し目標(800万人)が高すぎた印象。産業関係は目標をすでに上回っているものが多い。
- 座長 新しい産業がうまれている部分もある。新たな視点にあるが、関係人口は最近よく出ている。性質上把握は難しいと思われるが目標の設定は。

- 事務局 東京一長浜リレーションズとして組織化しているため、登録者数でカウントできる。使い勝手がよい言葉のため、全国的に使われているが、把握については国も課題としている。
- 座長 成果としては観光客や移住の増加などにも反映すべきだと思われる。新たな視点はどの部分に足すのか。
- 事務局 基本目標の下に新たな視点をぶら下げる。基本的な方向や具体的な施策として。基本目標など根本的なところは変更しない。
- 委員 関係人口はどこを狙いどころとするのか。似たような文化を持って都市と地方が交流するのは非常によい。ただ、蓄積をイメージしないと単なるフローで終わってしまう。何を長浜に残して積み重ねるかが重要。例えば、人材育成。関係人口と子どもが交流する機会があれば、子どもにとって蓄積となる。観光もありがたいが、違う目線も大事。二拠点生活になるといいなど、簡単におもいつく成果もあるが、その先の長期的な関係をイメージしたほうがよい。長浜市は関係人口で何を残すか明確にする。
- 座長 都市部の企業が地方で拠点をもつ。例えば徳島の神山町。その他にも南紀白浜や軽井沢でのワーケーション。それをサービスとして提供するスペースもある。連携協定を結んでいる台東区にもものづくり企業や藝大がある。長浜にも拠点やスペースを提供して、3 か月や短期間働く。そういった場所を市として整備はできないか。ニーズはあると思われる。
- 事務局 そういった提言を受けている。田村駅周辺で検討している。
- 委員 第1期と状況が変わってきている。単身高齢者の問題が深刻化している。その視点は入るのか。地域で自治会長をしているが、300世帯で80歳以上が60人いる。高齢者のみの世帯が増えており、買物難民等についての問題が5年前より顕在化している。早急に手を打つ必要がある。ICTやSociety5.0の中で自動運転などについて考えてもらいたい。
- 委員 企業誘致も大事かもしれないが、地域内の経済循環を高める取り組みが重要。地域でアンケートをとったが、地域で買い物できる環境のニーズが高い。農業中心になると思われるが、近場で経済をまわす環境が大事だと思われる。家が地域を支えている。家が孤立すると地域がなりたたない。コミュニティが大事。
- 事務局 地域共生社会の実現については第2期に盛り込んでいきたい。稼ぐ力の向上は地域内の経済循環を重視している。
- 委員 <総合計画の重点プロジェクトでの地域共生への取り組みについて説明>
社会的処方というキーワードがある。例えば退職後畑をしようと考えていたが、思うようにいかず止めてしまい、家にひきこもる。そうなる前に園芸クラブなどの居場所とマッチングする。イギリスを中心に広がっている考えで、社会的課題に対して、社会的処方を当てはめる。川崎市が取り組み始めている。マネタイズできれば稼ぐ力の向上、リスト化すれば課題と処方のマッチングを進められる。一人で歩くことは続けられなくてもグループなら続けられ、健康につなげること

- ができる。長浜でも可能。新たなコミュニティやテーマで集まる団体が地域の悩みとマッチングできれば効果的。今後重要になる視点と思われる。
- 委員 主に木之本で人口が減って買い物をする場所がなくなってきたという意見を聞く。移動販売の要望もあるが、民間企業では利益を出してまわすのが困難。農作物を買い取りしてまわりつつ販売するなど色々検討したが、地域間を移動するコストも結構かかる。農作物を市場までもっていくのも高齢化で難しい。もっていても儲けにならないのでやめてしまう。
- 座長 農業に若い人の力導入したい。高齢者のアドバイスが必要。新規就農者の増加を高齢者と進めているが、規制が強いため緩和してもらいたい。
- 委員 親が農業していないと厳しいのが現状。
- 座長 農業の維持は全国で問題。市のスタンス、体制にもよる。水田が中心の長浜市ではまだ維持できているかもしれないが、地域経済循環において農業は大事。新たな手法の検討が必要。
- 委員 地産地消が理想。給食センターの統合は効率的かもしれないが、必要量が多いため地域でまかなうことが難しい面もある。
- 事務局 県よりも制限を緩和はしている。北部の振興には農林、観光業が重要。今年度から組織改編も行った。現場の声を聴いて改善したい。
- 委員 人口減少は社会の流れであるため、止められない。悪いイメージで捉えられるが、企業から見るとチャンスとなる場合もある。少人数で現在と同じ利益を出せるよう試行錯誤するから。それを支援する施策が必要。Society5.0に向けたIoTやRPA、ビッグデータの活用。都市部では当たり前になってきたが、地方ではまだ活用されていない。市として広く取り入れる体制出来ると産業構造はいい方向に向く。健康というキーワードがささる人が多い。地域のニーズ高い。ビジネスとしても。インターバル速歩のセミナー実施した。聴講料をいただいても100人に参加いただいた。注目されている分野であり、企業にも地域にもよく、いいまちづくりに繋がる。
- 座長 先進事例のモデル都市となると実証実験ができる。一緒に開発するような環境が必要。
- 委員 Society5.0はムリ・ムダ・ムラをなくすもの。買い物や地域交通を問題設定して企業等と繋がれば実証実験のフィールドとして技術や資金を集められる。迅速な対応。今後はすべてのものにAIがのる(IoT)。その土壌や取り組みを問題とマッチングする。世界的な研究者を輩出する大学も近辺にある。一度長浜市に来てもらうだけでも変化がある。繋がる場のセッティングが大事。
- 委員 ドローンを使用しての物流実験が近くでも始まっている。そういった時代が目の前まで来ている。
- 委員 先進的な取り組みで少し有名になるだけでも住民が増える可能性がある。
- 委員 妊娠・出産・子育てが若年層の女性にとっては近い未来。それぞれの希望を叶えるための提案を行うのも重要だが、もう少し先の子育てしながら働く。そこまでを基本目標に反映してもらいたい。人生は長く子育てで終わりではない。

満足度調査で低い部分に雇用と就労の機会の少なさがある。求職者も企業もそう思っている。市として力を入れているとも感じているが。まず地域で働いていない潜在的な人的資源をどう企業と結びつけるか。子育てと就労の両立という言葉がよくでるが、当事者としては両立は非常に難しい。バランスをとって両立するのではなく、相乗効果を起こしたい。働く側の意識改革ではなく、受入側、企業の環境を整えることを前面に押し出す必要がある。子育ても就労もすべて頑張るという感覚は疲れてしまう。一丸となって地域を盛り上げるといった雰囲気が欲しい。自分事に落とし込むためにも大事。

座長 大津の女性中心のワーキングスペースで話を聞いたところ、技術はあるが子育てが一息ついてすぐに事務所をもったり再就職したりするのではなく、コミュニティの中で仕事をしたい、社会に自分の役割を位置付けたいという想いで集まっている。ゆるやかな結びつきで複数の仕事をする。それを模索する女性は多い。そういった方が活躍できる環境をどう整備するか。生活の延長線上に働くがある。そういったニーズが確実にある。

委員 規模が小さいけど自分らしく生きるため、起業とパート勤務の両方をする人がいる。起業のサポートをしてシェアスペースで仕事をし、横のつながりができる場所を作っている。こうした働き方もできるという雰囲気が浸透し始めている。企業からの仕事の受注まで結びつけられればうまくいく。

副座長 技術の進展により大企業型にはならないと思われる。10人未満で食べられるような企業集団ができてくるとビジネスモデルとして育つ。従来型の製造業はおそらく2060年までは続かないため、産業構造がどこにシフトするか注視する必要がある。IoTをサービスとして受けるよりも、実行する側になるほうがおもしろい。長浜より米原の方がトライアル&エラーをしているイメージがある。長浜の方が中心市街地があって、商工業もそれなりにあるから。米原は資源や自然があるのでそれを活用している。例えば甲津原の漬物産業の6次産業化。30年くらい続いており非常にいい取り組み。しかし知名度がない。発信できていないから。移住・定住施策がうまくいっているところは発信をうまくしている。稼ぐことも大事だが、取り組みの発信方法も大事。発信力のバックアップの仕組みが必要。災害に対応するための分散型発電システムも重要。米原では木質バイオマスに取り組んでいる。災害時でも発電システムがあれば、長期的な停電等を避けることができる。

委員 戦略の内容とデータが関連付けられるように策定していただきたい。

座長 次の懇話会ではパブコメ前の案となっている。長浜市は挑戦と創造でまちづくりをしている。今後も続けていくことが重要。

4 その他

事務局 次回は11月に開催予定。

5 閉会

事務局 総合政策部長よりあいさつ

以上